

オープンデータ流通推進コンソーシアム 第四回 利活用・普及委員会 議事要旨

日 時：平成 26 年 3 月 13 日（木）10:00～12:00

場 所：三菱総合研究所 4 階大会議室

1. 総務省挨拶

：本年もオープンデータ流通推進コンソーシアムの表彰イベントを行うことができました。今年も昨年までの勝手表彰に加えて、総務省も共催者の一人としてアプリコンテストに参加させていただいています。わずか 2 週間の募集期間で 92 件の応募をいただき、ようやく日本でもオープンデータの取組みが本格化していることを実感しています。こういった取組みは隠れた才能、隠れた優秀なアイデアを発掘する機会として非常に重要であると思っています。

来年以降も継続していく予定ですが、その中で皆様の利益につながるものが生まれれば、行政としてもありがたいと考えています。併せて賞金も来年以降増額をしていくつもりなのでよろしくをお願いします。

最後に、今回膨大な応募作、応募者の中から審査していただいたコンソーシアムの有識者の先生方に御礼を申し上げて私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

2. 「オープンデータ・アプリコンテスト」受賞者コメント

最優秀賞「花粉くん（花粉くん.com）博報堂アイ・スタジオ

：リアルとデジタルの世界を融合させることによって、新しい体験ができるようにもの作りをしていこうと思っています。4 月 25 日からこの「花粉くん」を含めた作品展示を原宿ロケットで行う予定ですので、ご興味がある方は足を運んでいただければと思います。本日は素晴らしい賞をいただきありがとうございました。

優秀賞「フォトロケハンター!!」チーム・メガサバ 宮前様

：このアプリは、株式会社 jig.jp のインターンシップに参加し開発したプロトタイプを同じメンバーで再集結し、ブラッシュアップしたものです。プロトタイプでは、位置情報を収集するツールアプリに止どまりましたが、オープンデータの活動普及やその利用価値をより魅力的に感じ易くなるよう、コンセプトを再考し、ゲーム要素を組み込みました。国からトップダウンでの情報公開が進む日本の現状ですが、今後は民間企業や市民が主体に打って変わり、ライフラインとして本当に必要なデータの公開に声を上げる風潮、また自らデータを作り上げていく活動が期待され、事実、そのようなフェーズに入りつつあると、実感しています。”フォトロケハンター!!”のように、オープンデータ全

体のボトムアップとなり得る、データ作成支援アプリの活用がこの流れを加速させることと確信しております。

(当日はアプリの紹介をしていただいたため受賞コメントいただいておりませんが、後日コメントをいただきました。)

佳作「odStatViewer」東京国際大学 佐藤研究室 佐藤様

:「odStatViewer」は今回の実証実験で提供された小地域統計データを活用するアプリです。誰でも簡単に欲しいデータを検索でき、結果をわかりやすく、ビジュアルイズできることを目標に作ったものです。今回の実証実験データは画期的なものでした。Linked Data が SPARQL 経由で提供され、統計は国際標準 QB 準拠でした。おかげで「odStatViewer」を短期間に開発できました。データにさらにもう一工夫加えていただくとこれらの新技術の威力を十分発揮できるオープンデータになると思っています。そうすれば次世代のオープンデータ時代の幕開けになるだろうと感じています。このような歴史的とも言えるようなコンテストに参加させていただきありがとうございます。

技術賞「プラチナ社会を支えるデータクリエイタのための基盤アプリケーション LinkData.org」Code for プラチナ社会 豊田様

: 私達はオープンデータの流通を 2000 年くらいからライフサイエンスの分野で専門にやっています。ライフサイエンスの分野では若いアプリクリエイターと一緒にデータを作るシニアの人達が活躍しているので、他の分野でも将来の社会において、アプリを作る若い人とデータを作るシニアの人が連携しながら活躍するだろうというビジョンを持っています。それがプラチナ社会の多世代連携型ビジョンと合ったので、この名前を付けました。技術が進むほど簡単に使いやすくなる、敷居が下がることを目指しているため、SPARQL 技術も、それが難しさをアップするのではなく、容易化させる方向でこの基盤技術を提供すべきだと考え、私と大阪大学の古崎さんと理研の下山さんとでこの基盤を開発しました。今回私たちの応募作品を表彰いただきありがとうございます。

技術賞「セーフティコンパス for 京都市」 徳田様

: コンテストの応募締切り 8 日前に頑張って応募しました。現在地情報から複数の防災施設を最寄りの順に表示するアプリです。デバイスさえあれば、ネットワークにつながなくても GPS 情報で最寄りの場所が検索できるので、相性がいいということで防災施設を選択しました。官公庁や自治体の皆さんに申し上げたいことは、オープンデータでは特に防災施設を重要視していただきたいです。3.11 もあったので重要視される防災施設を充実させてください。リアルタイムで危険な場所のデータも提供していただければと思います。ありがとうございました。

技術賞「BeaconCast」東京大学情報学環 中尾研究室 中尾様

: この度は技術賞を頂きまして誠にありがとうございます。今回、定期的に取得されるリアルタイム性が重要視されるオープンデータに関しては、サーバ側のトランザクションのコストを削減し、遅延を防止する必要性があることを示す目的で、本アプリケーションの技術開発を行いました。今回、コンテストに参加させていただき、オープンデータが非常に簡単に活用できることが理解できました。コンテストを通して、オープンデータがもたらす便益が、より多くの国民に理解され、データにおけるプライバシー保護等の難しい問題を克服して、オープンデータ利活用が促進されることを切に願っております。

(所用のためご欠席でしたが、後日コメントをいただきました。)

自治体行政情報実証賞「～情報の防災袋～ iShelper (アイ・シェルパー)」

プレゼンター：株式会社NTTデータ 小林様

: このアプリには随所に工夫が盛り込まれています。「情報の防災袋」の名前のおりアプリ全体の利用目的も非常に明確で、データの活用方法もわかりやすいものとなっています。すぐにでも使えるアプリケーションとして仕上がっていたので表彰させていただきました。おめでとうございます。

受賞者：宮城県工業高等学校 情報研究部 平子様

: 本日はこのような素晴らしい賞をいただけたことを嬉しく思っています。ありがとうございます。本アプリは高校生の持っている技術で、高校生の視点で作ったアプリです。私もサポートで携わっていますが、ほぼ100%高校生達のアイデアで作りました。3年前の東日本大震災の彼らの経験をもとに、震災時にあったら役に立つのではないかとこの思いから、アイデアを練り上げたものです。現在地と近くの避難所の位置を探し出すために、避難所検索モードを実装しています。その際避難所データを実装しようと思っても、自治体によって公開されていなかったり、フォーマットがバラバラであるということで非常に苦労しました。また、このアプリは、震災時にお世話になった全国の方々への恩返し思いを込めて、全国の方に使っていただきたいと思っています。その際、避難所データがオープンデータとして公開されれば、全国の全ての方にこの iShelper を使ってもらえるのではないかと考え、このコンテストに応募しました。賞金をいただけたのも嬉しいですが、一番はこのコンテストを通してこのアプリを知っていただき、オープンデータがより一層を発展することによって iShelper を全国展開できればと考えています。本日はありがとうございました。

社会資本実証賞「視覚障害者サポートアプリ」

プレゼンター：富士通株式会社 大久保様

: 視覚障害者をサポートするという社会的な貢献度が高いアプリケーションを作っていたということ、選定させていただきました。おめでとうございます。

受賞者：株式会社オリズン 徳永様

：このような賞をいただきありがとうございます。このアプリコンテストに応募するにあたり、関係者、社員、実証実験にご協力いただき貴重な意見をいただいた視覚障害者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。今増えている歩車分離信号は、視覚障害者にとっては、渡りにくい信号であるというお話を伺いました。渡りにくい理由は、視覚障害者の一番の情報は耳ですが、車が動く音を聞いてどちらの方向の信号が青になっているかを判断して渡られると。歩車分離信号を見ると全部車が止まってしまうので、今どっちが青であるかが、その情報では分かりにくいというお話を伺いました。歩車分離信号のある場所を、視覚障害者の方に通知してあげれば、渡る情報として役に立つのではないかということでこのアプリを作成しました。未熟なアプリなので改善点がありますが、今後信号等の情報のオープンデータの更なる整備、加えてバス情報等との連携強化によって、また、最近流行っている Wearable 端末等のデバイスの選択も考えながらアプリのバージョンアップを行っていきたいと思っています。このアプリを視覚障害者の方に使っていただき、よりよい生活の手助けになればと考えています。このような賞をいただきましてありがとうございました。

観光実証賞「ご当地なび」

プレゼンター：日本IBM株式会社 榎原様

：このアプリケーションは観光情報だけではなく、防災情報をオープンデータとさまざまな独自の情報をほどよくマッシュアップして、使いやすいユーザインタフェースで提供されています。アンドロイドと iOS を両方網羅されているので、非常に実用的です。もう一つ特筆すべき点は、コンテンツの更新にタクシードライバーや市民が参加できるような仕組みになっているところです。これこそオープンデータの真髄であると思います。その点を高く評価した次第です。おめでとうございます。

受賞者：京都フラワーツーリズム合同会社 高木様

：まさに目指したところが評価されていて、とても嬉しく思っています。この5年間で1万枚の花情報が配信されています。今このアプリを見ていただくと、昨日一昨日の最新の花情報が見られます。京都に来ただけで、今からどこに行ったらいいかという質問を多く受けます。思いついて出かけた時に見ごろはどこかという質問に何とか答えられないかということで、立ち上げました。京都には観光タクシーがあり、タクシーのドライバーを巻き込んでやろうということで、ホテルで配信する場所を作り、タクシードライバーに手助けしていただき、多くの市民の方々にも手伝っていただき、今の花情報を届けることをやってきました。ここまで続けてこられたのは、花情報を見ていただくことでやりがいを感じてくれた、ドライバーが今まではハンドルしか握ったことがなかったが、花情報を配信することで多くの方々からレスポンスが返ってきてやりがいを感じる事ができたからだと思います。今回応募したのも、こういうやりがいを感じた方々に、更に強いやりがい

を持っていただきたいこと、また花情報だけでなく防災情報、避難者情報を加えることによって、より京都の観光に役に立つことができるだろうと考えたからです。オープンデータが地域の活性化に役に立つことが見えてきたと思います。このような形でオープンデータをどんどん展開していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

防災実証賞「津波避難ナビ」

プレゼンター：NTTデータ経営研究所 石丸様

：本アプリは、3Dで避難のルートや時間をシミュレーションできるという、津波が持つハザード特性を非常に踏まえた優れたアプリであるということで選定させていただきました。おめでとうございます。

超次元空間情報技術株式会社 中村様

：今日はこのような素晴らしい賞をいただきまして、ありがとうございます。このアプリは津波のハザード情報（どこまで来るか）を出しています。そこに現在地や指定した場所から津波が来るであろう地域外に何分で行けるかを調べることができます。このアプリを作った理由は、私どもの会社は茨城県にあり、大学の先生と共同で東日本大震災以降、津波の避難者の避難行動の分析や、実際の津波到達地点の分析をしていました。その中でこういう情報があれば役に立つと思っていたものが、まさに今回の実証実験で公開されて利用できるということを知り、このアプリを使って今後の活動に活かしていけないかということで作成しました。機能的に未熟なところはありますが1番の問題点は、茨城県で活動していますが、今回出たデータが神奈川県のデータだったので、まだ実際の活動に使えるところまではなっていないところです。津波のハザード情報は、まだ3～4割の方がご存知ではない状態です。これからの津波に備えて安全な社会を作る役に立てればいいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

公共交通実証賞「3D山手線時計」

プレゼンター：YRPユビキタス・ネットワークング研究所 新堂様

：このアプリケーションは山手線を使ったいろいろなアプリケーションの中でも独自の世界観を持って作られたものだと思います。非常にインパクトがあったので選定させていただきました。おめでとうございます。

受賞者：重定様

：山手線を題材に選んだ理由は、身近であることと、実証実験の中で1分おきに情報が更新され、最もリアルタイム性が高いところが面白いと思ったからです。最初はグーグルマップの上に線に乗せてリアルタイムに動かすことを考えましたが、それは皆が考えるだろうと思って独自の世界観でやってみました。そこが評価されて嬉しく思います。最近はwebで3Dが簡単にできるようになっているので、これと合体させれば面白いと思っています。3Dにするとデスクトップアクセサリのようになって普段から眺めて楽しむこともでき

ます。今回はあまり時間がなく、やり残したことがあるので、次回はもっと上を目指して頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。

統計情報・データカタログ実証賞「Hello Town!!」

プレゼンター：YRPユビキタス・ネットワーク研究所：新堂様

：このアプリケーションは、統計情報を使って、ある問題を解決するという独自の視点で作られたところを評価させていただきました。おめでとうございます。

受賞者：岡田様

：このような賞をいただきましてありがとうございます。このアプリは自分自身の体験をもとに作成したものです。2年ほど前は京都に住んでいて、就職のために東京に来ました。その時に、この知らない場所の情報を知りたいなと思いました。不動産屋が持っている主観的な情報ではなく、客観的なデータとして出しているものがなく、今回統計情報と組み合わせるとそういうデータが出せるのではないかと思いました。現在地からその場所のエリアに住んでいる人たちの情報（どういう世帯かファミリー層が多いのか等）を取り出せるものを作成しました。オープンデータは自分だけでは得られない情報が簡単に利用できて便利です。機会があればいろいろなアプリ作成に挑戦してみたいと思っています。貴重な機会をいただきありがとうございました。

花粉症関連情報実証賞「花粉くん（花粉くん.com）」

コメンター：ウェザー・サービス株式会社 横田様

：このアプリは、機能性・デザイン性・操作性のバランスが非常によく取れていると思います。花粉症という辛い情報を扱っていますが、親しみやすく完成度の高いアプリに仕上がっています。更に私も花粉症ですが、自分でも使ってみたいと思わせる素晴らしいアプリになっていると思います。おめでとうございます。

※ダブル受賞なので受賞者のコメントはなし。

3. 「勝手表彰」受賞者コメント

最優秀賞「インターナショナルオープンデータデイ 2014」OKFJ および全国 32 の開催地域 庄司様

：OKFJは「やりましょう」と呼びかけただけで受賞したのは32箇所でイベントを開催した主催者の皆さん、参加者の皆さん、協力してくださった皆さんです。終わって世界の状況を見てみると、開催地が増えていき最終的には194箇所になっていました。そのうち、日本が32箇所です。途中までは日本が一番多かったのですが、最終的にはアメリカが39箇所になって、少し追いつきませんでした。今後、更に日本の具体的な活動が注目されるように、この輪を広げていきたいと思っています。

優秀賞「富岳 3776 景」静岡県と山梨県 疋田様

：この度は思いもかけずこの様な立派な賞をいただき、光栄に思っています。今回は静岡県と山梨県の自治体の取り組みということで、表彰していただきましたが、富士山を末永く後世に継承していく取り組みとして民間企業さんにご賛同いただき、その上で成り立った官民連携の取り組みだと思っています。この場をお借りして、システムの開発にご協力いただいた株式会社ナイトレイ様、サーバの提供をいただきましたエヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社様、それらを後押ししてくださった OKFJ の皆様にお礼を申し上げます。今回オープンデータを活用するということで富士山への思いを広く皆さんと共有する取り組みでしたが、システムを作ったことによって、2 月中旬の大雪のとき、いろいろなところで道路が寸断されたりした際に、このサイトを急遽、皆さんの地域の情報をいただく場として活用し、オープンデータとしてのせました。このような使い道で情報の共有が図れた点も 1 つの成果であったと思います。オープンデータの更なる可能性を強く感じました。今後も、折にふれ、ご協力していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

優秀賞「データカタログサイト試行版」内閣官房 IT 総合戦略室 鈴木様

：本日このような賞をいただいて、賞というよりも、評価していただいたことをありがたく思っています。IT 室が代表して賞をいただきましたが、データカタログサイト試行版については、全省庁からデータを出してもらったということで、政府全体の取り組みに対しての評価であると思っています。まだ試行版であり、これからよりよくしていかなければならないので、いろいろなお意見をいただきたいと思っています。資料では 1 万近いデータと書いてありますが、先週の終わりに新たに追加され 1 万を超えました。本格版に向けてさらによくする検討をしています。オープンデータの取組は、データカタログサイトだけではなく、国としてもさらにやっていかなければいけないことがあるので、これを 1 つのきっかけとして更に頑張りたいと考えています。よろしくお祈いします。

優秀賞/OKFJ 賞「5374 (ゴミナシ)」

プレゼンター：OKFJ 庄司様

：国産のアプリがいろいろな地域に広がっているということを高く評価し、今後の期待も込めて国際的にも紹介していきたいと思い、選ばせていただきました。おめでとうございます。

受賞者：一般社団法人コード・フォー・カナザワ 福島様

：今日はこのような素晴らしい賞をいただきまして、ありがとうございます。私達コード・フォー・カナザワは、IT とデザインで地域の課題を解決しようということで昨年 5 月に誕生しました。まずは僕達ができることを形として見せていこうということで、そのために一番わかりやすいものと考えて「5374 (ゴミナシ)」を考えました。金沢はゴミを捨てる区域が細

かく分かれていて、分け方も複雑になっています。作る時にたくさんの人に使ってもらえなければ意味がないということで、コード・フォー・カナザワとしてはデザインにもかなり注意しました。できれば他の地域でも使っていただけるようオープンソースにしました。お蔭様でたくさんの方々にそれぞれの地域版を作ってください、多くの方々に支援をいただいているような賞をいただくことができました。これからも「5374 (ゴミナシ)」が発展していけるよう頑張っていくとともに、もっと Civic Tech を広げていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

国際大学 GLOCOM 賞「LinkData.org」

プレゼンター：国際大学 GLOCOM 庄司様

：本来であれば所長の庄野が参るところですが、都合がつかなかったため私で代行させていただきます。学術研究機関のオープンデータへの貢献を応援していきたいということで、こうした取組みを選ばせていただきました。おめでとうござひます。

受賞者：理研豊田研究室 下山様

：この度は、数ある取組みの中から選んでいただいたことを大変光栄に思ひます。私達は 2011 年から研究現場で生まれた技術を一般の方にも役に立つように公開するためにオープンデータの取組みを進めています。最近では個人の方が大変活躍されていることに私達も感銘を受けています。個人の方が、行政が出しているデータカタログサイトからデータを使って二次加工後、付加価値を付けたものを公開することによって、それが共有されてアプリがたくさん作られているという状況が私達の基盤上でも起こっています。こういった取組みをサポートしていきたいと考えています。個人の方がオープンデータやその他の活動につながられるように、また地域での課題解決や付加価値創造につながられるように今後も全力でサポートしていきたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

日本マイクロソフト賞「Fukuoka Facts」

プレゼンター：日本マイクロソフト株式会社 光延様

：福岡市さんの「Fukuoka Facts」は、非常に市民目線で市民の皆様の興味を引くようなナビゲーションをされていました。オープンデータにアクセスしやすいビジュアルなインターフェースになっています。市民の方がデータを発見しやすく、またそのデータにアクセスしやすく興味を持ってもらいやすいところにご尽力されておられるので表彰させていただきます。おめでとうござひます。

受賞者：福岡市 栗秋様

：今回は、このような賞をいただきまして誠にありがとうございました。「Fukuoka Facts」は、見やすく、わかりやすいサイトを目指して制作いたしました。オープンしたのは先月の 14 日で、まだ 1 ヶ月経っていない中、お目にとめていただき大変嬉しく思っております。こ

のサイトではデータに基づく福岡市の魅力をイラストやアニメーションなどを活用して分かりやすく紹介するとともに、関連するデータをダウンロードファイルとして提供しています。ダウンロードファイルを提供するにあたり、クリエイティブコモンズを表示できないか検討したのですが、他の自治体のデータを使わせていただいている点で断念したという経緯がございます。オープンデータ流通推進コンソーシアムさんのご活動によって、そういった点がクリアされ、今後ますますオープンデータの利活用が促進されることを心より祈念しております。ぜひ皆さんに「Fukuoka Facts」をご覧いただき、福岡市の魅力を周りの方々にもご紹介いただければありがたく存じます。福岡市にも是非足をお運びください。本日はありがとうございました。

インディゴ賞「自分で計算してみる日本の予算 2013」

プレゼンター：インディゴ株式会社 高橋様

：この作品は、予算というマクロな話を自分の身近な問題として感じる接点として、非常に素晴らしい取組みであると思っています。「税金はどこにいった」の逆方向からのアプローチとして、この取組みが連携するともっといろいろなことができるのではないかと思います。選ばせていただきました。

受賞者：株式会社 think tonight 坪根様

：本日はご表彰いただきありがとうございます。このアプリはテレビや新聞のニュースで気になることがあった時に、少し使ってもらえればいいなと思い始めました。ここまでダウンロード総数は想像よりは若干少ないですが、ご感想などをいただいて楽しくやっています。間もなく新しい予算も成立すると思いますので、「自分で計算してみる日本の予算 2014」をリリースしたいと思っています。よろしくお願い致します。

トーマツ賞「アグリノート」

プレゼンター：有限責任監査法人トーマツ 服部様

：日本で農業をされている方のニーズをうまく汲み取り、オープンデータを活用して解決策を提示しているということだけではなく、アイデアを事業化されている点を評価させていただきました。こういった企業がどんどん出てくることで日本経済が元気になっていけばと思っています。おめでとうございます。

受賞者：ウォーターセル株式会社 中川様

：アグリノートの名前が有名になり過ぎて、アグリノート株式会社と呼ばれることも多いですが、ウォーターセル株式会社という新潟の会社です。私どもは日本の農家さんからの困ったという声にお答えする形で2010年末から農業のIT化に取り組んでいます。農家さんの目線からデータを提供していく中で、農林水産消費安全技術センターが、日本で現在使ってよい農薬一覧をホワイトリスト形式で提供しているのを見つけて、それをシステムに取込むのは面倒だろうということから、当時はオープンデータのことを考えずに使い始めた

のがオープンデータ活用のきっかけです。その他はマップがあります。土地管理に困っている農家さんがグーグルマップという、ある意味でのオープンデータを使っています。自然にアグリノートではオープンデータを使うシステムになりました。今後も農家さんのためにデータ活用を進めていきたいと思っています。本日はこのような素晴らしい賞をいただきまして、ありがとうございます。

jig.jp 賞「Code for KOSEN」

プレゼンター：株式会社 jig.jp 福野様

：Code for KOSEN は、明石高専に「今から Code for X は面白いぞ」という話をした時に、「まずは高専生活をなんとかしたいです」という話があったので、「じゃあ Code for KOSEN はどう？」というところから立ち上がり、見事経産省のコンテストで最優勝を獲得するなど勢力的に活動を広げています。今まで内向的でオタクが多い高専の中で、一皮向けた活動を見せてくれたところに感激しました。その後で私も Code for KOSEN に入れさせてもらったのですが、今後の景気づけのために jig.jp 賞を選定させていただきました。これからは、是非、後輩育てを頑張りましょう。おめでとうございます。

受賞者：Code for KOSEN 泉様

：今日はよくわからないままに呼び出され、よくわからないままに表彰されることになりましたが、大変ありがたく思っています。Code for KOSEN の活動は昨年末から始まったばかりで、まだまだやらなければならないことがたくさんあると思います。全国の高専に広げていきたいと思っています。

日本 IBM 賞「ちばレポ」

プレゼンター：日本 IBM 株式会社 榊原様

：このアプリケーションは、市で起こっている様々な地域課題を行政と市民の皆様が一体となって解決する、その解決するためのプラットフォームとなるシステムです。このシステムを作るにあたっての取組みも、協力して行うことを地दैいていて、市はもちろん議会と市民が一緒になって単なるイベントの副産物に終わらせずに、今年9月に本格運用を開始するまでにこぎ付けたとお聞きしています。その取組みが非常に有意義で他の自治体のお手本になると判断しました。おめでとうございます。

受賞者：千葉市 平田様

：この度は、数多くの候補の中から選んでいただきましてありがとうございます。この実証実験に際して、協力事業者として日本マイクロソフト様には技術提供、クラウドの環境提供等様々なご支援をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。この仕組みはオープンデータデイの中から出てきたものです。千葉市では ICT を活用して市民と行政が共同で地域の課題を解決する取組みを始めるにあたってこれを活用させていただきました。実証実験は終わりましたが、今年9月から運用を開始することになりました。

このように市民が参加してオープンデータを活用していく取組みを全国の自治体にもご紹介できたことでよい機会になったと思います。本日はありがとうございました。

4. 技術委員会 越塚主査講評

今回技術賞を審査するという事で、全てを見せていただきました。この短期間でこれだけのアプリケーションが上がってきたことに驚いています。日本にはプログラムを書く人がたくさんいるのだなと思いました。ソフトウェアも見せていただくと、オープンデータということでデータを出し、それを使っていたことはもちろんですが、それだけではなくスマートフォンに入っているセンサーのデータも使っていたり、短期間で高度な技術を組み合わせるいろいろなものを作っていました。このコンテストは来年も引き続きあると思いますので、更に高度な技術を駆使していただいて、私たちも驚くようなものがたくさん出てくることを期待していますのでよろしくお願いします。今日受賞された方は、これからもオープンデータを盛り上げてください。よろしくお願いします。

5. オープンデータ・アプリコンテスト及び勝手表彰委員長 中村主査全体講評

今日は、オープンデータ・アプリコンテストで受賞された皆様、おめでとうございます。そして、勝手表彰で受賞された皆様、受賞していただいてありがとうございました。昨年の勝手表彰も企業の方、行政の方、学校の方、或いは NPO の方、その他様々なセクションの方が受賞されて、様々な方々がこの分野で活躍していることを知って非常に感銘を受けています。今回も同様でした。非常に幅広いジャンルの方々がご活躍なさっています。いろいろなセクションの方々が1つのオープンデータという目標に向かって集まっていたら熱気を見せていただいていることに、非常に心強い思いをしています。アプリコンテストには92件の応募をいただいて、熱が高まっていることにあらためて心強い思いをしています。この活動をしていて、最近2つ、自分のひざをポンと打ったことがあります。1つは、佐藤秀峰さんが前回のシンポジウムで「ブラックジャックによろしく」のことをお話されたときの事です。彼はその情報やデータの利用をフリーにし、オープンにすることで非常に彼自身具体的に儲かったという話をされました。7000万円儲かったという明け透けな話をされましたが、持っているデータをオープンにすることによって、人に楽しんでもらったり、儲けたりすることがあるのだな、案外単純なことかもしれないなどその時思いました。もう1つは、前回の利活用・普及員会で、どなたかがおっしゃったことですが、オープンデータというのは、1つのデータをオープンにされても、それでうまくいくものではない。様々なオープンになったデータを組み合わせ、そこに自分の会社のクローズドなデータやリソースを組み合わせることによって初めて大きな仕事になると。そのとおりだと思います。つまりそれは非常に複雑なことかもしれません。単純なのか複雑なのか、まだまだわからないことがあります。私はモデルが必要なのではないかと考えています。私自身はビジネスモデルという言葉は好きではありません。ビジネスモデルが出来上がっ

たところには、もうビジネスはないと思っています。こと、オープンデータに関しては、もっとわかりやすい、我々が進むべき指標・モデルとなるようなものがあればいいなと考えています。今日表彰された24件の中に、様々なモデルが見て取れると思います。そうしたモデルを我々は活かして、今度はそれを役に立った、具体的に儲かったというような成果や実績を出していく番なのだなと感じています。

実は私自身はオープンデータやビッグデータの専門ではありません。専門の皆さんはここにおられます。専門に研究している方々、実際にそれでビジネスを考えている産業界の皆様、そしてそれを引っ張っている中央官庁や自治体行政の皆様、こうした産官学の連携によって新しいジャンルを立ち上げていくことが私の専門です。言ってみれば、きちんとそれが産業界としても、行政としても、あるいは研究領域としても立ち上がってくれば、私はお役御免になります。早くその日が来ないかと今から祈っているところです。もう少し時間がかかるかもしれません。それまでは皆さんと手を携えてこの分野を盛り上げていきたいと思っています。去年のこの会議で、越塚戦先生が「世界一になろうぜ」、とおっしゃって、「なろう」、と皆で決めた、それが今や日本の政府の目標にもなっています。今年の動きを見ていると、日本は順位を上げているのではないかという気がしています。是非とも世界一を目指して、皆で前に進んでいきたいと思っています。今日は本当におめでとうございました。そしてありがとうございました。私からの講評とさせていただきます。

以上